

ホンモロコのふ化仔魚生産方法の改良

三枝 仁

◆背景・目的

ホンモロコのふ化仔魚生産方法について、省力的でかつ種苗への負担が少ない手法として、卵のふ化から仔魚の放流までを自動化できる「自然流下式ふ化槽」を検討した。

◆成果の内容・特徴

- 採卵枠の収容量の増減に応じて仔魚の流下量も増減しており、ふ化日に到達していない卵が収容された状態でも、先にふ化した仔魚が順次流下することが判った。
- 従来方式でのふ化管理と同等の日数でふ化することや、ふ化後は約8割の仔魚が4日程度でふ化槽から流下することが確認できた。
- 生産にかかる作業は作業員1人で実施でき、通常であれば2～3人の作業員が必要なことに比べて省力化できることも判った。

◆成果の活用・留意点

- 仔魚が流下する仕組みの解明やワムシ給餌を組み合わせた方式など、歩留り向上についての検討や、大型水槽での検討など、実用化に向けた詳細な試験を実施し、「自然流下式ふ化槽」を応用することができれば、ホンモロコふ化仔魚の大量生産放流における作業の効率化を図ることが可能となる。



自然流下式ふ化槽の試作品

